

都市再生整備計画 事後評価シート
後閑駅周辺地区

平成25年10月

群馬県みなかみ町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	群馬県	市町村名	みなかみ町	地区名	後閑駅周辺地区			面積	15.8 ha
交付期間	平成20年度～平成24年度	事後評価実施時期	平成25年度	交付対象事業費	925 百万円	国費率	0.4		

1)事業の実施状況		当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名		
		基幹事業	提案事業	道路((都)真政・悪戸線整備事業、(町)後閑駅坂線整備事業)		
				まちづくり活動推進事業(後閑駅周辺まちづくり協議会活動支援事業)		
				事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	なし				
	提案事業	事業活用調査(都市再生整備計画事業効果分析)			事業効果分析業務の実施年度変更(交付期間終了の次年度実施へ変更)にともなう事業の削除	影響なし
新たに追加した事業	基幹事業	なし				
	提案事業	なし				
交付期間の変更		当初	平成20年度～平成24年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-
		変更	-			

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	まちなか満足度(住環境の向上)	%	33.6	H19	40.0	H24	-	49.8	○	あり	・基幹事業である2路線の道路整備により、歩行環境と住宅地としての都市景観が大きく変わり、住環境改善が実感された。	-
指標2	JR後閑駅へのアクセス時間短縮	分	9	H19	6	H24	-	5	○	あり	・(町)駅坂線の整備による歩道整備と縦断勾配の緩和により、特に東西方向の歩行時間が短縮された。	-
指標3	定住人口の維持	%	-7.0	H19	0.0	H24	-	-10.0	×	あり	・本計画には住宅地整備に関連する直接的施策が取り込まれていなかったことが定住人口増加を達成できなかった要因であると考えられる。	平成26年5月

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	整備に対する満足度(駅周辺の利便性)	%	-	-	/	/	-	58.6	/	/	・(町)駅坂線と(都)真政・悪戸線の整備により、地域の根幹動線が確立され、駅へのアクセス性改善が実感された。	-
その他の数値指標2	整備に対する満足度(定住意向の評価)	%	-	-	/	/	-	94.3	/	/	・両道路整備により、地域の方々に都市景観の向上や住宅地の質的向上が実感され、定住志向がきわめて充実した。	-

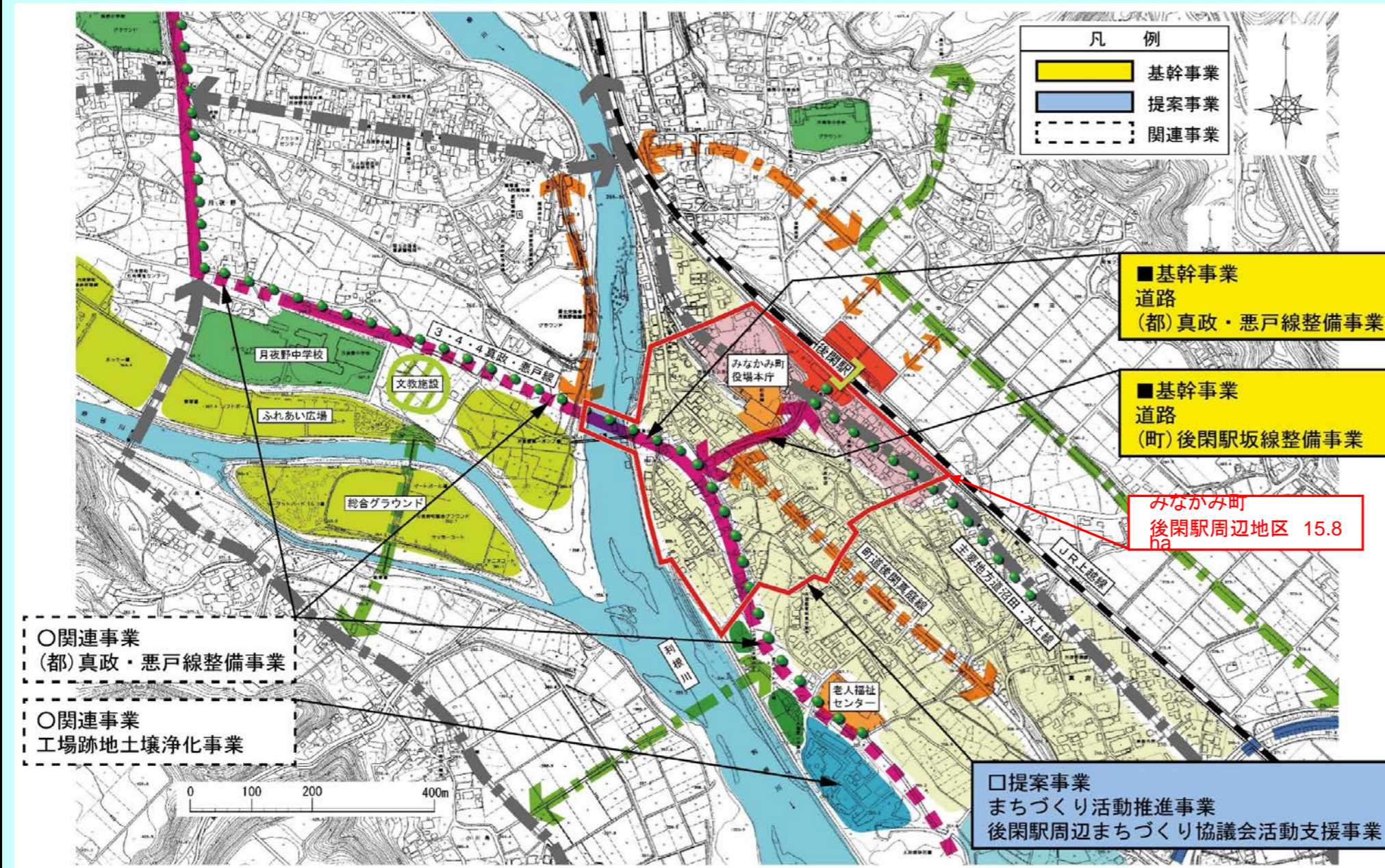
4) 定性的な効果発現状況
後閑駅坂線整備により、みなかみ庁舎南側の眺望が広がり、都市景観が向上した。

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等
5)実施過程の評価	モニタリング	事業担当部署とのミーティングの実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	今回おこなった地域へのアンケートの定期実施を図り、担当部署が連携し、住民の価値観やニーズの把握に努める方針である。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	住民参加プロセス	後閑駅前地域協議会の活動	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	後閑駅前地域協議会では、後閑駅前の土地利用や空き店舗活用に関する検討など、地域の権利者や利用者が主体となるまちづくり施策を協議する方針である。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	持続的なまちづくり体制の構築	後閑駅前地域協議会の活動内容の充実	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	町の広報やホームページに情報を掲載し、活動そのものの認知を促進し、参加者の増加を目指す方針である。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式2-2 地区の概要

後閑駅周辺地区(群馬県みなかみ町) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	値	年	値	年	値	年
◎ 都市機能の充実を図り、やさしさにぎわいある新町のコア市街地を創出する。 ● JR後閑駅への徒歩系アクセスを向上し、公共交通の利用促進と駅周辺の人の溜まりを創出する。 ● 南北・東西の幹線道路を整備し、まちなか中軸ルートを確立する。	まちなか満足度(住環境の向上)	単位: %	33.6	H19	40.0	H24	49.8	H25
	JR後閑駅へのアクセス時間短縮	単位: 分	9	H19	6	H24	5	H25
	定住人口の維持	単位: %	-7.0	H19	0.0	H24	-10.0	H25
	整備に対する満足度(駅周辺の利便性)	単位: %					58.6	H25
	整備に対する満足度(定住意向の評価)	単位: %					94.3	H25



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> これまで、利根川河岸段丘の上段と下段に区分されがちであった線的な土地利用形態は、(町)駅坂線の整備により、上下(東西)間の基軸となる動線が確立した。あわせて(都)真政・悪戸線の整備により、宅地としての利便性が低かった地域が良質な住宅地として整備され、面的な広がりが見事なロケーションを持つ住環境が形成された。 (町)駅坂線の整備による、東西方向の連絡強化と(都)真政・悪戸線の部分開通により、人と車の流れが変化した。このことにより、これまで地域の優先ルートであった南北方向の(町)後閑真庭線と(町)駅坂線交差点では、一時停止義務が東西方向から南北方向に変わったため、(町)後閑真庭線側の安全確認が徹底されず、交通事故の発生が懸念されており、交通ルールに関する啓発活動が求められている。 近年の社会的ニーズの変化により、地域観光拠点はJR後閑駅から上毛高原駅(新幹線駅)へと移り、JR後閑駅周辺では通勤通学利用駅としての機能強化が重要な課題となっている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> (主)沼田水上線沿道がメインであった線的な市街地構造を改編し、利根川左岸地域への都市基盤整備を進め、面的でフラットな住みやすい住宅地の整備を継続する。これにより、みなかみ町コア市街地として定住人口の増加を図り、歩いて暮らせるコンパクトシティの実現を促進する。 (都)真政・悪戸線橋梁部が未整備のため、これまでに連絡が図られていない本地区と「月夜野中学校」周辺の河川寄り農地との面的連結達成、及び災害時避難施設である「中学校体育館」への駅周辺地域からのアクセス性向上を図ることを目的として、当該橋梁完成を今後のまちづくりに関する重要施策として位置付ける。 地域住民の理解と協力を得たうえで、実効性ある事業展開を図るため、住民ワークショップや住民協働に関する啓発活動を推進する。